

波佐見焼産業のツーリズム化

○竹田英司（長崎県立大学）・小林善輝（特定非営利活動法人グリーンクラフトツーリズム研究会）・澤田健一（波佐見町役場）・山口浩一（波佐見東地域集落活性化協議会）・川崎穂乃花（長崎県立大学）・近藤美侑奈（長崎県立大学）・平田万紀子（長崎県立大学）・柳原莉珠（長崎県立大学）・鎌田財地（長崎県立大学）・山口航平（長崎県立大学）

Keyword：陶農観光（グリーンクラフトツーリズム）、コト消費モノ消費トキ消費、民学産公

【問題・目的・背景】

1. 研究課題

人口減少の影響を受けて、生産者と消費者のどちらも減少している。日本の各地域産業では企業数が減少し、付加価値額が下がっている。地方創生とは、人口減少対策、少子化対策、高齢化対策として、地方の平均所得を上げることにある。日本政府は、地方の平均所得を上げるために、地域の「稼ぐ力」を重要視し、着地型観光による地方創生を推進している¹⁾。

本研究の目的は、波佐見焼産業（長崎県波佐見町）について、「地域産業のツーリズム化」という視点から検証し、生産者や消費者が集まる要因を明らかにすることである。波佐見焼産業におけるツーリズム化の成功要因は、地方創生の模範解答に成り得ると考えられる。

【研究方法・研究内容】

2. 研究方法

「地域産業のツーリズム化」という視点から、地域経済の付加価値額を上げ、地域を活性化させるためのコト消費、モノ消費、トキ消費の具体例を提示する。具体的には、①まず、「2018 長崎県異動人口調査年間集計結果報告」から長崎県内市町と波佐見町の「社会移動数と自然増減数」、「高齢化率」を、「2017 年長崎県観光統計」から長崎県内市町と波佐見町の「日帰り客人口比」、「日帰り客 1 人あたりの土産代ほか」、「日帰り客 1 人あたりの飲食娯楽費」を比較する。②次に、「公」である波佐見町役場の『第 10 次波佐見町基本計画』、「産」である特定非営利活動法人グリーンクラフトツーリズム研究会（2018）の「2017 年度事業報告書」、「民と学」である波佐見東地域集落活性化協議会と長崎県立大学地域産業研究室の「2019 やまなびプログラム」から、民学産公それぞれの「地域産業のツーリズム化」に関する取り組みを整理する。③最後に、波佐見

町におけるコト消費、モノ消費、トキ消費を取り上げ、波佐見焼産業のツーリズム化を考察する。

3. 先行研究

波佐見焼の地域ブランド化に対して、「製品は現代の消費者ニーズにはあまり合致しておらず、…中略…、ブランド化への道のりは遠い」（長崎県立大学産学推進チーム、2011、26 頁）と指摘を受けている。しかしながら、「有田や伊万里よりリーズナブルでかわいい、女性受けする器がある」（波佐見町商工振興課、2018、22 頁）というまで、波佐見焼に対する消費者のブランド・イメージは改善している。

イデアパートナーズ（2019、56 頁）によれば、波佐見町を訪れる消費者の属性は、約 7 割が女性であり、全体の年齢層は 40 代（23.0%）、50 代（18.4%）、20 代（17.5%）、60 代（15.7%）の順で多い。

4. 波佐見焼と波佐見町の概要

長崎県波佐見町（2019 年 6 月末人口 14,733 人）は、長崎県北部の中間山地である。波佐見町は、日用食器を中心とした波佐見焼（陶磁器）の産地である。波佐見町役場企画財政課（2018）によれば、現在の波佐見町は、「窯業から観光窯業へ」、特定非営利活動法人グリーンクラフトツーリズム研究会、波佐見東地域集落活性化協議会、波佐見町観光協会が中心となって着地型体験観光の「陶農観光（グリーンクラフトツーリズム）」に取り組んでいる。

【研究・調査・分析結果】

5. 分析結果 1：統計分析

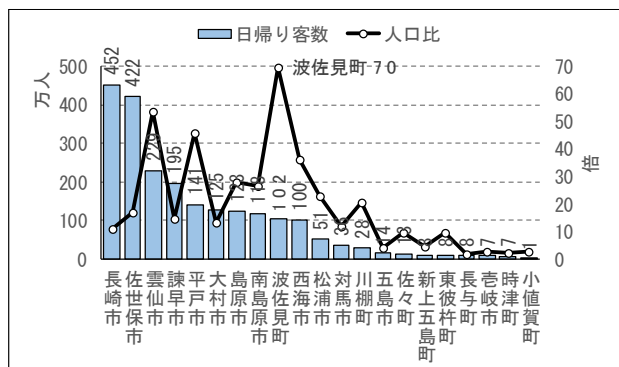
2017 年長崎県内の日帰り客数は、図 1 のとおり、長崎市（452 万人）、佐世保市（422 万人）、雲仙市（229 万人）の順で多い。しかしながら、人口比で見れば、波佐見町（70

1) たとえば、DMO (Destination Management / Marketing Organization、観光地域づくり組織) 形成を始めとする国土交通省観光庁「観光地域づくり」などがあげられる (国

土交通省観光庁 (2018) 『観光地域づくりに対する支援メニュー集 (2016 年度予算確定版)』。

倍)、雲仙市 (53 倍)、平戸市 (46 倍) の順で高く、波佐見町は、人口 14,686 万人 (2017 年 1 月 1 日現在) に対して 70 倍の日帰り客 (102 万人) が訪れている。

図 1 長崎県内の日帰り客人口比 (2017 年)



出所: 「2017 年長崎県観光統計」から作成。

表 1 のとおり、波佐見町「日帰り客 1 人あたりの土産代ほか」は 2,120 円であり、この 2,120 円は「日帰り客 1 人あたりの波佐見焼購入費」と推察できる。その一方で、波佐見町「日帰り客 1 人あたりの飲食娯楽費」は 466 円と長崎県内の中で最も低く、「氷窯アイスこめたま」の商品単価 450 円や「にぎりめしかわち」のセット単価 500 円とほぼ同じである²⁾。「日帰り客 1 人あたりの飲食娯楽費」の低さが波佐見町の課題といえる。

表 1 長崎県内の日帰り客単価 (2017 年)

	土産代ほか (億円)	飲食娯楽費 (億円)	日帰り客 1 人あたりの土産代ほか (円)	日帰り客 1 人あたりの飲食娯楽費 (円)
長崎市	276	291	6,101	6,446
佐世保市	144	193	3,420	4,577
雲仙市	43	42	1,855	1,833
西海市	25	52	2,495	5,155
波佐見町	22	5	2,120	466
平戸市	19	22	1,380	1,595

出所: 「2017 年長崎県観光統計」から作成。

6. 分析結果 2: 「地域産業のツーリズム化」に関する取り組み

特定非営利活動法人グリーンクラフトツーリズム研究会や波佐見東地域集落活性化協議会が企画している着地型観光体験をまとめたものが、表 2 である。波佐見町の着地型観光体験は、陶芸観光、農業体験、その他の体験からなる陶農体験である。

表 2 波佐見町の着地型体験観光

コト消費 (陶芸体験)	コト消費 (農業体験)
ろくろ体験	しいたけ作り体験
上絵付け体験	しいたけ狩り体験
下絵付け体験	味噌作り体験
転写絵付け体験	梨狩り体験
手びねり体験	米作り体験 (田植え、稲刈り、収穫)
陶板壁掛け作り	そば作り体験 (種まき、刈り入れ、そば打ち)
ピザ作り体験	酒造り体験
窯焼き遺産めぐり	農家民泊体験
コト消費 (その他の体験)	
古民家再生体験※	フラワーアレンジ体験
天体観測体験	化粧品作り体験

出所: 波佐見町観光協会 (2019) から作成。

注: 古民家再生体験は、波佐見東地域集落活性化協議会と長崎県立大学地域産業研究室による「2019 やまびプログラム」の一部である。

【考察・今後の展開】

7. 結論

地方の平均所得を上げるためには、地域産業の付加価値額を上げなければならない。地域産業の付加価値額を上げるためには、コト消費、モノ消費、トキ消費を合わせた「地域産業のツーリズム化」が必要である。

【引用・参考文献】

1. イデアパートナーズ (2019) 「観光に関する現状分析動向調査業務報告書」。
2. かもめ地域創生研究所編 (2019) 『リクルート OB のすごいまちづくり』世論社。
3. 特定非営利活動法人グリーンクラフトツーリズム研究会 (2018) 「2017 年度事業報告書」。
4. 長崎県観光振興課 (2018) 「2017 年長崎県観光統計」。
5. 長崎県統計課 (2019) 「2018 年長崎県異動人口調査年間集計結果報告」。
6. 長崎県立大学学長プロジェクト編 (2016) 『波佐見焼ブランドへの道程』石風社。
7. 長崎県立大学産学推進チーム編著 (2011) 『波佐見の挑戦: 地域ブランドをめざして』長崎新聞社。
8. 長崎県立大学編集委員会 (2015) 『長崎の陶磁器』長崎文献社。
9. 長崎県立大学編集委員会編著 (2017) 『創る×まち育てる×ひと: 地域創造と大学』長崎新聞社。
10. 長崎国際大学 (2017) 「2016 年度波佐見町観光政策提言事業報告書」。
11. 波佐見町観光協会 (2019) 「まるごと波佐見体験 2019 春夏」。
12. 波佐見町商工振興課 (2018) 『波佐見町観光振興計画 2017-2021』。
13. 波佐見町役場企画財政課 (2018) 『第 10 次波佐見町基本計画』。
14. 波佐見焼振興会編 (2018) 『波佐見は湯布院を超えるか』長崎文献社。

2) 「氷窯アイスこめたま」と「にぎりめしかわち」は、西の

原エリア (波佐見町井石郷 2179) 内の人気店である。